

## 恐竜を知る

恐竜とそれ以外のハチュウ類は、脚の付き方の違いで分けられるぞ。多くの恐竜は脚が体の下に伸び、二足歩行できるのが特徴じゃ。



地球

館

B1

階

1入口

恐竜の誕生



1

恐竜をなかま分けするには



恐竜を大きく分けると竜盤類と鳥盤類に分けられる。では、それぞれどんな特徴があるかな？

竜盤類と鳥盤類は、恥骨の形の違いにより分けられます。外形だけを見ると鳥盤類と鳥類が近いように見えますが、実際には竜盤類の方が鳥類に近いことが分かりました。恥骨の形を図に描く事で、より生徒にも印象を深められます。

恐竜を竜盤類と鳥盤類に分類できることは、展示の解説にも丁寧に示されています。展示の入口にある解説を、よく読んでみましょう。



文字だけでなく、図でも説明してみよう！

さらに深めるには竜盤類と鳥盤類の進化も調べて見ましょう。

地球

館

B1

階

フロア全体

地球環境の変動と生物の進化



2

推しの恐竜を見つけよう



このエリアに展示されている恐竜の化石の中で、あなたの一番好きなものはどれでしょうか。その恐竜を「推し」にしてみましょう。



「推し」の恐竜、どんな特徴を持っていますか？ どんな点が「推し」ですか？自分なりにまとめてみましょう。

「推し」づくりをきっかけとして、恐竜を自分事のように親しめることがねらいです。見学後、学校に戻ってから生徒同士で「推し」の発表などの活動もよいでしょう。

このフロアには大型の恐竜の化石標本が多く展示されています。どの恐竜にも特徴があるので、その特徴を捉えながら「推し（おすすめ）」の恐竜について、自分の言葉で説明できると良いでしょう。

色々な恐竜がいて、迷ってしまいそう！強そうなもの、カワイイものなど、あなたはどれが「推し」かな？





## 3

## 壊さずに、どのようにして標本を調べるのか



CTスキャナを使うと、具体的にどのようなものを調べる事ができるでしょうか。

外側から見る事が出来ない脳や三半規管の空洞や、骨の内部構造、関節断面などを調べられます。

また放射線の活用など、地学単元以外にも関連する内容があります。意図して授業で扱うのもよいでしょう。

これぞ恐竜研究の醍醐味（だいごみ）とも言える標本の解析について、丁寧に説明されている展示です。



CTスキャナにより、貴重な標本を壊さずとも中身を調べる事ができます。

CTスキャナは、2次元のX線の撮影をスライスするように連続して行い、コンピューターで3次元化しています。



中生代の終わりにはどんなことがあったか。  
そして「恐竜」は絶滅してしまったのだろうか？



感じたこと

わかったこと

考えたこと

約6600万年前、現在のカリブ海付近の海に直径約10kmほどの隕石が衝突しました。直径10kmというと、山手線の線路の直径と同じくらいです。その衝突により直径200km弱のクレーター（チクシュルーブ・クレーター）が出来ました。

この出来事により小天体と地表の破片が大気圏に巻き上げられ、地球全体をおおいました。地表に届く太陽光線の量も減り、地球全体が寒冷化し、植物の光合成も減り、多くの生物の絶滅を引き起こしました。

恐竜も、鳥類を除いて絶滅してしまいました。逆に言えば、鳥類として恐竜は現在も生き残っている、とも言えます。



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

学習指導要領「大地の成り立ちと変化」 この単元での学習で、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定する内容があります。恐竜は中生代を代表する示準化石の一つです。また、「生命の連続性」では、化石と進化の証拠について学びます。学習指導要領上では学習する学年と分野が分断されていますが、このワークシートは化石と進化をつなげて学習することができます。恐竜という過去に生きて絶滅をした生物の存在や、化石を調べることの意義を実感させたいものです。